

## 酒田市総合計画審議会 第1回ひとづくり・まちづくり部会 議事要旨

### 1. 日時

平成28年11月24日(木) 15:00~16:40

### 2. 場所

酒田市役所中町庁舎61号室

### 3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 ひとづくり・まちづくり部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田市自治会連合会連絡協議会会長	伊藤 則義	部会長
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	工藤 吉郎	副部会長
松山地区コミュニティ振興会連絡協議会会長	池田 重悦	
酒田市芸術文化協会会長	工藤 幸治	
酒田飽海PTA連合会母親委員会会長	小山 敏子	
東北公益文科大学学長	吉村 昇	

【事務局】

総務部長、市長公室調整監、企画振興部長、地方創生調整監兼政策推進課長  
市民部長、教育部長、政策推進課

### 4. 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は6人であり委員定数8人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

#### (1) 現状と課題について

- ・資料1に沿って事務局より説明
- ・今回提示した「現状と課題」については、現計画の柱立てに沿って関係部課と協議しながら取りまとめたものであり、今後、基本構想、基本計画の策定を進めるにあたって、審議会委員と共通認識を持つために策定したもの。
- ・本資料は現時点のものであり、今後委員の意見を取り入れるとともに、必要に応じ各種デー

タを追加し改訂版として取りまとめたいと考えている

・資料1中、本部会で議論いただく箇所 第1章、第3章第1節、第8章

## ○現状と課題についての質疑・意見等

### 【不登校児童について】

(委員) 不登校児童の割合について、中学校において H18 実績 2.5%から H27 実績 1.95%と減っているが、この割合は山形県内の市の中でどのような位置か。各地で中学校の不登校が問題になっている。減少した原因、不登校の生徒に対するケアなど、どのような対策をしてきたか教えてもらいたい。

⇒ 後日資料を提出する。

### 【学力テストについて】

(委員) 全国学力テストについて、酒田市の小学生、中学生のレベルがどのあたりにあるのか。すぐ隣の秋田はトップクラスであり、山形県平均値と比較しても差があるためなぜそうになっているのか。

⇒ 学力については、山形県が全国と比べて低く、山形県の中で酒田市も平均を下回っている状況。個別に点数比較はせず、A 問題、B 問題での比較をしている。小中学校の国語は、A 問題、B 問題ともに全国平均と同じ又は1ポイントほど下回っている。

算数数学については、小中学校ともに全国平均を下回っている状況から、小中連携して授業力向上に継続的な取り組みを実施している。中学校の英語と数学に関しては、2校の数学と英語の教員が相互の授業実践から学びあい研修するホーム&アウェー方式の授業研究会や、先進地域の学校視察を行うなど、改善や分析に努めている。

一方で学習時間が少ないという問題がある。小中ともにスマホ、TV、ゲームに2時間以上費やして、その分学習時間が少ない。授業力を高めることも重要だが、家庭での取り組み、保護者を通じて家庭教育の大切さをどう伝えていくかは課題である。

(委員) 由利本荘の学力が全国でも高い。お互い交流、研修会などやってはどうか。秋田県は沖縄県に教師を二人派遣し、沖縄の先生も秋田に二人来ていて、何年も交流を続けている。

(委員) 部活動が熱心で、土日、平日も夜遅くまで練習している。疲れて帰って寝るだけ。配慮が必要。

(委員) 山形県はかつて教育県と呼ばれ、山形が高く秋田は低かった。ぜひがんばってもらいたい。

(委員) 庄内よりも村山の方が、学をおこしていい仕事に就くという親の願いが強く、高校の進路指導では子どもを国立に進学させたいという親がほとんど。酒田や鶴岡は、子どもが入れる学校を進めるのが大筋のムード。ギーギーしなくてもいいじゃないかという豊かな発想があることを自分も経験した。一長一短あってどちらがいいということは決められない。子どもによっていろんな可能性、要素がある。

(委員) プライバシーの問題もあるかもしれないが、酒田市の教育レベルがわからない。親も子ども意識して常に全国レベルを目指していくべき。

⇒ 各学校で、自分たちの学校の学力テストの結果を保護者に渡している。

(委員) 学校ごとの比較はだめなのか。

(委員) 学力テストは自分たちの学校の子もたちの学力を把握するもの。

(委員) 学力テストはテストの結果を参考に、何が良くて何が足りないのか分析するためのツールである。比較は教育上望ましくない。結果を活かし、基礎基本をしっかりとすることが大事。

#### 【塾について】

(委員) 塾に行きたいけど行けない子どもがいると思われる。高校受験の勉強のときに塾に行けない子どもへのケアも必要ではないか。

#### 【学校トイレの洋式化について】

(委員) 小学校・中学校のトイレの洋式化について、先日 NHK でもとりあげられていたが、家庭では洋式が多いが酒田市の学校ではどうか。秋田では和式の使い方を知らないため和式にいかず、洋式にならんでいるということを知っている。酒田市の状況、今後の対応について伺う。

⇒ トイレについては改築する場合は全て洋式化している。既存校舎は和式があり来年度から洋式化へ取り組むが、中学校 1 校を洋式化する場合 4～5 千万円かかる。国の補助制度を使っていきたい。今年度に小学校と中学校の 2 校で実施設計をしている。

#### 【東北公益文科大学について】

(委員) 東北公益文科大学について、支援に対し大学がもっと成果を挙げなければならないと認識しており、しっかり期待に応えたい。情報系の教育、情報教育の人材育成、市内の民間企業、例えばベンチャー企業とのドッキングや、コワーキングスペースをもっと活性化しインキュベーションセンターにむすびつけたい。

#### 【いじめ問題について】

(委員) いじめの問題については、いかに小さいうちに芽をつむかが重要。大きくなると隠す傾向があり、重大な事故につながる。学校間で連携しオープンにするなど根本的な対応が必要。

#### 【特別支援教育について】

(委員)。本来なら特別支援学校に行くべき児童が、自分の生まれた地域の小学校にいきたいという想いがあり、適性就学指導してもそちらにいかないというケースがあると聞く。そうになると支援学級の先生が、その子にかかりきりになり、ほかの子に十分対応できないことになる。教師の負担がとても大きくなるのではないか。サポート体制をお願いしたい。

⇒ 県の特別支援学校は障がい者を指定しており、酒田の特別支援学校であれば聴覚、知的障がいがある児童生徒が入学できる。身体に障がいがある場合は酒田以外の支援学校に行くことになり、家庭の事情などで入れない方がいる。本来は特別支援学校で教育を受けた方が設備も整っていていいのだが、転居などが伴うことから、現状では特別支援学級で受け入れている。

#### 【移住施策について】

(委員) 山形市から遊佐町に移住してきた方が知り合いにいる。自然豊かなところで生活してみたいということいろいろ調べたようだ。酒田市のことも調べたそうだが、遊佐町のホー

ムページが充実していたとのこと。現在は遊佐町に移住し、まもなく子供も生まれる。酒田市では移住に力を入れていないのか。人口が減少していく中で、外からの受け入れ態勢をどう考えているか。

⇒ 酒田市でも積極的に移住施策を進めている。酒田市で不足していることは空き家の活用の部分であり、空き家の貸付、売買などホームページではわからない状況。現在、不動産業者等と会議を開き、できるだけ市場に物件がでるように誘導していこうと取り組んでいる。住まいの面では遊佐町の取組みは進んでいるが、酒田市だと、不動産に関わっている業者が多く、市のホームページに公開する際のハードル高い。調整していくことが課題であると認識している。

#### 【音楽祭等について】

(委員) 芸術文化に関し、新日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートが継続して開催されている。しかしチケットの販売に苦勞していた。

⇒ 新日本フィルの公演は空きがあった。東京公演に比べ割安だが市民に広がらないところがあり、引き続き普及していく。

(委員) 山形交響楽団のサポートについて、モンテディオ山形のように支援体制を県内市町村が整える必要があるのではないかと、課題としてあげていただきたい。「質の高い鑑賞機会を提供している」ではなくて、今後どうすべきかということ。

#### 【美術館について】

(委員) 土門拳や酒田市美術館に加え、私立の美術館へのサポートも文言化してもらいたい。公的な、市が関わらないものでも、グローバルに俯瞰して芸術文化振興を考えてもらいたい。

⇒ 市立、私立ともに連携していくべきと考える。

#### 【文化遺産の保存について】

(委員) 文化遺産の保存についてだが、酒田市にとって必要な文化遺産が出てきた場合、購入する予算がないと貴重なものが東京に流れるという現実がある。鶴岡と比べて予算が少ない状況である。

⇒ 資料の購入については、必要な時に必要な予算を要求するのでご理解いただきたい。

#### 【吉野弘について】

(委員) 社会教育文化課が吉野弘の講座を文化センターで実施した。吉野弘のこれからのビジョンについて示してほしい。芸術文化は未来、次の世代につながる大切な役目があるので、力を入れてもらいたい。

⇒ 来年1月に奥様と二人のお嬢様をお迎えし対談をするなど、吉野さんのご家族とは交流を続けている。年に1回は担当が訪問するなど一定程度の対応はしているところ。相手がある話であり、もう少し長い時間をかけたいと考えている。

#### 【地域コミュニティについて】

(委員) 施設の老朽化、更新は課題。事業が定型化していることに対しては、いかに地域のみなさんに参加してもらえるかということを考えているが、型にはまらない柔軟な発想、どうしたら少子高齢化にはどめがかかるかなど難しい。地域でも地域おこしというものを考え始めているので相談に乗っていただきたい。

(委員) それぞれのコミュニティで文化祭が開催されており、大変にぎわっている。各コミュニティで、芸術文化活動に携わっているいろいろな発表をする人、それを見に来る客がどのくらいいるのか、統計をとって現状と課題を分析していただきたい。

また、それぞれの地域で行っている活動について、芸術文化活動の促進という視点でコミュニティと芸文協が協力していく必要がある。検討していただきたい。

(委員) コミセンの事業については各コミセンで統計をとっている。参考にしてもらいたい。

#### 【観光、体育施設について】

(委員) アランマーレが頑張っていて、先日も国体記念体育館で大会があった。国体記念体育館は大会を開くにはスペースが狭く、記者会見をする場所も無い。プロスポーツに力をいれるということを宣伝するのであれば、体制、大会の運営など、国体記念体育館を有効に活用できるように考えていかなければならない。

アランマーレは体育施設、練習会場がないということが悩み。松山地域には体育館が3つあり、あまり使われていない。有効利用をするために整備し、スポーツの拠点として3つの体育館の一つにして、交通も便利にしてイベントができるものにできないか。

眺海の森や城址館という新たなイベントを企画する施設もできた。集客する方法、大型のクルーズ船が来るが、余目駅からの交通のアクセスも含めて観光のスポットとしてどう考えているか。

⇒ 部会ごとにテーマを分けて議論いただいている。クルーズ船を含む観光については、産業経済部会で議論いただいた後に皆さんにお伝えする。

## (2) 未来会議における市民意識の傾向について

- ・資料2に沿って事務局より説明

### ○未来会議についての質疑・意見等

(委員) 未来新聞は公的な機関でとりあげられるのか。

⇒ 100人近い市民から集まっていたものであるものであり、会議の様子は毎回ホームページに公開している。これからの検討になるが、市役所の1階スペースに張り出すなど、積極的に発信していきたい。

(委員) ここまで一生懸命参加し、ワークショップで話し合っていることを絶対に無駄にしないで活かしていただきたい。われわれの話はあまり夢がない、しばられているようで。わくわく、いいのー、そういう構想を考えていきたい。

### ○連絡事項（事務局より）

- ・現状と課題の議論について、追加で意見があればFAX等でお知らせいただきたい。
- ・現状と課題の扱いについては現時点のものであり、今後、加筆修正しながら年度内に改訂版をとりまとめる。
- ・資料提出の依頼があったものは次回部会において、可能なものについて提出する。
- ・次回の部会の日程について、本日の議論を踏まえ、どういう基本構想、計画にするかという

ことを議論することになると思われるが、年明けに部会を開催する方向で改めて日程調整を  
させていただきたい。

以 上